



ななくり

藤田保健衛生大学七栗サナトリウム広報委員会編集 発行人 園田 茂
〒514-1295 三重県久居市大鳥町向広424-1 電話 059-252-1555(代表)
ホームページ <http://www.fujita-hu.ac.jp/HOSPITAL4/> FAX 059-252-1383

《特集》

今回の広報「ななくり」は七栗サナトリウムの重要な柱である緩和ケア病棟についてご紹介します。

緩和ケア病棟

病棟主任（医師） 村井美代

当病棟は、1997年、大学病院としては全国で初めて認可された緩和ケアの専門病棟です。病床数は18床、現在医師4名（講座教授：東口高志、講師：伊藤彰博、講師：

飯田俊雄、助手：村井美代）、看護師11名で活動しております。この緩和ケア病棟が今、生まれ変わろうとしています。人々とのふれあいを大切にして新しい緩和ケアをめざしています。もしよろしければ一度私たちに会いに来てください。



ホスピス・ケア

藤田保健衛生大学七栗サナトリウム緩和ケア病棟（ホスピス）では、患者様がどのような状態にあるかということを、ホスピス・ケアにかかわるスタッフ全員が理解し共有することを大切にしています。患者様の肉体的な痛みの緩和、精神的な不安の緩和、日常生活への援助、そして患者様と痛みを分かち合っているご家族への援助も行っています。患者様とご家族と話し合いな

がら、限られた時間のなかで患者様が一番患者様らしく振舞えるように、チームが一丸となって考え、支えます。ホスピス・ケアとは、「その人がその人らしい生をまっとうすることができるように援助すること」と言えます。“一日一刻を患者様らしく有意義に送ってもらいたい”、ホスピスのスタッフはみんながそう願っています。

新しい緩和ケアの試み

新・緩和ケアシステム

2003年10月より当教室で着手しています新しい緩和ケアの確立とそのシステム化について少しご説明したいと思います。

1. 癒し環境の構築

癒し系絵画、写真、音楽療法、アロマセラピー、リフレクソロジー、季節の行事の充実、花壇の整備など。



2. 緩和ケアNST(栄養サポートチーム)の設立

- 1) 入院時ほとんどすべての患者様が栄養障害を有し、必要カロリーや栄養素の是正が必要
- 2) 輸液・栄養管理実施基準の設定
- 3) ビタミン・微量元素欠乏の補正による症状緩和、食欲の増進や褥瘡予防に有効
- 4) CoQ10・高脂肪含有栄養剤投与による呼吸器症状の緩和
- 5) 緩和ケア食の開発
- 6) オピオイド(麻薬)による便秘の改善と腸管免疫能賦活;GFO(グルタミン・ファイバー・オリゴ糖)投与
- 7) カテキン口腔ケアの実施など



緩和ケアNSTスタッフ

左から 伊藤NSTディレクター
薬剤師 管理栄養士 リンクナース
サテライトディレクター NSTナース

3. 全人的医療の実践

- 1) 病棟コンサルジュ(患者様およびご家族の要望を受けその満足度を向上させる総合窓口)の設立
- 2) 入院時インフォームドコンセント(患者様・ご家族への説明)の徹底
- 3) ペインコントロールの適正化など。

新システムの効果

1. 食べて楽しく生きることの延長

入院後の平均生存期間は35.7日から50.6日、平均経口摂取可能期間は28.6日から43.5日といずれも有意に延長しています。

2. 褥瘡(床ずれ)の減少

新規褥瘡発生率も、40.9%→32.4%→10.8%→5.4%と減少傾向にあることが確認されました。

3. 全人的ケアの確立

終末期がん患者様に対して積極的で全人的なケアの実践を行っています。
これによって身体的苦痛のコントロールに加え、心理社会的因子が緩和され、患者様のQOL(生活状態)と満足度の向上が得られています。



ボランティア講座の様子
滋賀県延命寺住職 伊藤信彦先生の講演
(写真 上)

藤田保健衛生大学 佐藤先生と学生がボランティアに参加 (写真 下)



2003年10月より当教室は、これまでのわが国における緩和ケアの問題点を省みて、新しい緩和医療の構築を開始しました。①癒し環境の確立、②栄養療法の導入、③全人的医療の展開を三本柱として、末期がん患者さんが一人の人間(ヒト)としてしっかりと大地に立ち、ご自分の一生を良き人生であったと納得され、そして満足していただけるような環境づくりに邁進いたしております。幸いにも当緩和ケア病棟は、四季折々の自然の恵みを受けており、またそこに集う人々も患者さんのご家族やボランティア活動の皆さん、そしてスタッフ達をはじめ皆心優しき方々ばかりで

す。私たちは患者さんを中心としたチーム医療を展開し、現在の医学の粋を集めてしっかりと構築された医療の上で、痛みもなく心安らかな日々を過ごしていただき、“生きることの素晴らしさ”を心から感じていただけるように日夜努力いたしたいと思っています。

藤田保健衛生大学医学部
外科学・緩和ケア講座

教授 東口高志

外来医師担当表

平成17年5月1日現在

	月	火	水	木	金	土
内 科	鹿野教授	鹿野教授	鹿野教授	鹿野教授	鹿野教授	休診
外 科	東口教授	伊藤講師	東口教授	村井医師	飯田講師	伊藤講師
リハビリテーション科	園田教授	鈴木講師	岡崎医師	三沢医師	岡本医師	※交代制

※ 注意 リハビリテーション科土曜日は山中学医師・笛吹亘医師が交代で診察します。

セミナー、地域講演会のお知らせ

第33回 七栗リハビリテーションセミナー開催のお知らせ

日時 平成17年5月25日(水) 開場18:00 講演 18:30-20:00

場所 三重県文化会館小ホール

514-0061津市一身田町上津部田1234(三重県総合文化センター内)

講演内容 小児リハビリテーションの最近の動向 -脳性麻痺, 自閉症などへの取り組み-

講師 国立成育医療センターリハビリテーション科高橋 秀寿先生

参加費 無料, 400名まで

お問い合わせ先: 藤田保健衛生大学七栗サナトリウム七栗リハビリテーション研究会(担当永井)

〒514-1295 三重県久居市大鳥町向廣424-1

TEL:059-252-1555 FAX:059-252-1383

E-mail:rehab7n@fujita-hu.ac.jp

七栗サナトリウム地域講演会 市民大学戸木学級

日時 平成17年5月27日(金) 13時30分～15時

※集合確認・会場整理のため、13時20分までに入場してください

場所 久居市立戸木公民館(電話059-255-2135)

演題 「健康に老いる食習慣」

講師 藤田保健衛生大学七栗サナトリウム管理栄養士 白山弥寿子

主催 久居市立戸木公民館

藤田保健衛生大学七栗サナトリウム広報委員会

編集後記

この広報『ななくり』は今回で9回目の発行となりました。今までの紙面はタイムリーな情報を載せていました。今回からさらに七栗サナトリウムをご理解いただく

ため1つのテーマで掘り下げた内容にしました。今回は終末期医療の病棟を取り上げました。知りたい内容、興味があること、ご意見、ご感想等ありましたら広報までお問い合わせください。 編集者一同